

「福島県東西しらかわ農業協同組合 地域農業再生基幹施設緊急整備事業」
 「農業復興の起爆剤から地域復興のシンボルとなるべく邁進する」
 矢吹中央支店、西部営農センター施設、西部共同農業倉庫の竣工式が行われました

7月31日、公益財団法人ヤマト福祉財団(本部:東京都中央区、理事長:有富慶二、以下:ヤマト福祉財団)「東日本大震災 生活・産業基盤復興再生募金」の第4次助成先の1つである東西しらかわ農業協同組合(福島県白河市)は、かねてより建設中の「JA東西しらかわ矢吹中央支店、西部営農センター施設、西部共同農業倉庫」の完成に伴い、竣工式を執り行いました。

東西しらかわ農業協同組合は、福島県の県南に位置する白河市、矢吹町、棚倉町、埴町、矢祭町、鮫川村一帯に住む約1万人の農業生産者への支援を行っています。平成15年にはオリジナルブランド米「みりよく満点米」を開発し、米の海外輸出にも力を注いできました。

しかし東日本大震災の激震により全5カ所の農業倉庫が損壊。水路も破損するなど、甚大な被害を受けました。そこで東西しらかわ農業協同組合では、地域の農業生産の復旧、復興を目指し、5カ所に分散していた農業倉庫を東西の2カ所に再編し、米の低温管理が可能な農業倉庫を新設することにいたしました。この倉庫集約により、地域農産物物流の合理化を進めるとともに、常温管理しかできなかった従来の石蔵倉庫に比べ、一層の品質向上を図ります。

ヤマト福祉財団は、最大激震地であった福島県内陸部の農業の復興再生を図るため、国の助成対象となっていない農協の農業倉庫の建設費用2億7000万円を平成24年2月に助成いたしました。同年9月19日には東部共同農業倉庫(埴町)が竣工し、標準収容量2万2000俵の倉庫が秋には新米で満杯となりました。そして2棟目となる西部共同農業倉庫(矢吹町)及び矢吹中央支店(事務所、農産物直売所等の複合施設)の地鎮祭が、昨年12月14日に執り行われ、この度竣工の運びとなりました。

竣工式で鈴木昭雄代表理事組合長は「農業復興の起爆剤たる矢吹中央支店・西部共同農業倉庫ができたことはこの上のない喜びであり、この施設が農業だけにとどまらず地域復興のシンボルとなるべく邁進してまいります」と挨拶をされました。



完成した矢吹中央支店の外観(手前右が低温管理ができる共同農業倉庫)



みりよく満点の看板が目印の直売所



「一刻も早く地域のお役に立てることを約束したい」と挨拶される鈴木組合長



倉庫内を視察する有富理事長。二分割された倉庫は、米の在庫量が少ないときは片方に集約、電力消費を軽減できる



金融機能等有する中央支店事務所施設

【新施設】

- ・低温農業倉庫／建物1,216.29㎡、建築面積1,304.83㎡、米の標準収容量28,000俵
- ・矢吹中央支店／建築面積916.54㎡(直売所、購買店舗、物品倉庫3施設含め)